

まさにおーらのみなぎる人だけに、出だしの雰囲気づくりが重要と思っただ筆者は、Aさんの了解を得て対談直前の名刺交換の際、清宮さんに、「監督のマツタ高校とは対戦したことはないのですが、私の母校の福岡高校は…」と切り出したとたん、「フッコーラグビーはいいですね。森さん(森重隆監督・高22回)のラグビーはとて面白い」とポクンと反応が返ってきた。福高ラグビーのお陰で場の空気はたちまち和み、その後の対談は非常に盛り上がり、Aさんもスポンサーも大喜びだった。

「仲間のため」と森監督への厚い信頼と尊敬

4人のラグビー歴には驚く。松下さん兄弟は、お兄さん2人も福高ラグビー部卒だ。福岡さんと奥山さんは幼稚園時代からずっと一緒に楯円ボールで遊び、プレーしてきた。

こうした福高ラグビー「お陰さま」の話は同窓生からも結構聞く。

前出のチームメイトの藤田さんは、4人や昨年卒業した先輩の中鶴憲章さん(60回)、樺島亮太さん(61回)、櫛山博史さん(同)たちにも共通する「福高ラグビー部卒」の特徴を「みんな当たり



Shinshichiro Matushita

た仲間。みんな幼いころからお父さんにラグビー観戦に連れて行ってもらっていたそう。そんな4人を育てたのが福高ラグビーだ。

役割時代のプレーを見てきたお父さんから「この人のもとでやってほしい」と言われたという。松下さん兄弟からも論語の「身を殺して仁をなす」や、「仲間のためなら、それこそ死ねるんじゃないか」というくらい

同期や仲間の大切さを身をもって学んだ」といった言葉が相次いだ。28年ぶりに

「強い」と指摘した。そして4人の口から出たのは森監督への厚い信頼と尊敬の言葉とラグビーへの熱い思いだった。「ポクは高校入学時、体重が40キロちよつとしかなかった。しかし、森監督も現役時代は小さかったけれど頑張ったということ聞き、自分にもできると思った」と言うのは強い体力が求められるフ兰卡ーの奥山さん。福岡さんは、森監督の現

花園出場を果たした2010年のチームのキャプテンだった真七郎さんは将来について、「福高ラグビーにかかわっていきたい」と話すほど「福高ラグビー」の存在感は大きい。

高校時代の両膝の怪我や大学受験でのブランクを乗り越え、日本代表として存在感と活躍を見せる福岡さんは、11月2日の秩父宮ラグビー場での世界最強のニュージーランド代表・オールブラッ

その福岡さん、2015年のW杯ロンドン大会と2019年の日本大会を視野にフル回転している。麻生先輩は「怪我や故障しないよう祈りながら、更なる活躍をワクワクしながら期待しています」と見守っている。



'13/11/24 vs AoyamaUniv

選手一人ひとりが輝き、一生の大切な仲間が生まれ、技術を超えた本物を伝えようとする魂が脈々とつながっている福高ラグビーのよき伝統と指導者の熱い思いが育んだ

「若者の成長」の一端を見せてもらえた取材のひと時だった。

4人は連日、練習とウイットトレーニングに汗を流し、授業とアルバイトをこなし、そして試合

に臨む。ラグビーを生活の柱に据えながら人生を切り開こうとしている。感謝の言葉を忘れずに励む。このさわやかな若者たちに心からエールを送りたい。



©JRFU, photo by RJP H.Nagaoka



藤田さんも含む筑波大5選手と編集部、ラグビー大好き先輩たちの歓談のひとコマ(つくば市内のホテルで)



Michiaki Okuyama

脈々と流れる技術を超えた本物を伝えようとする魂

「日本代表 福岡」ならではのシーンだった。



Kenki Fukucha

「若者の成長」の一端を見せてもらえた取材のひと時だった。



Shogo Matushita

「若者の成長」の一端を見せてもらえた取材のひと時だった。